

投資

変わりゆく時代のなかで着実な前進

2014年、オイコクレジットの投資額は大幅に増えました。ポートフォリオ(投融資資産)の組み合わせやその質を念頭に、事業の運営環境の変化に効率的に対応し、オイコクレジット独自の社会的投資活動を広げました。

2014年はとてもよい年で、パートナーを増やし、開発金融ポートフォリオを拡大しました。低所得者層が正規の金融取引を受けられるようにするために、社会的志向のマイクロファイナンス機関(MFI)支援を引き続き最重要課題としました。また小規模農家や地方の貧困層を支えるための農業投資や再生可能エネルギーへの資金援助、経済的恩恵を受けられない人の多いアフリカにおけるポートフォリオ構築なども優先しました。

投資総額は5億9,050万ユーロ(2013年)から7億3,460万ユーロ(2014年)へ24%も伸びました。これは投資するパートナーの数が前年よりも増えたことや1件当たりの貸付金額が増えたことによりますが、ユーロが他の通貨に対して弱くなったという為替の影響もあります(前年はユーロ高)。このユーロ安を計算に入れるとポートフォリオの伸び率は17%でした。

投資運用はマクロ経済と市場の動向に左右されました。世界の金利は依然低く推移したのでオイコクレジットの金利も低く抑えたことが結果に響きました。マイクロファイナンス以外の分野、特に農業と再生可能エネルギーの分野でも新しいパートナーを求めました。そして世界中の投資件数を253件(2013年)から276件(2014年)に増やすことができました。融資承認件数は増えましたが、パートナー数は前年の815に比べて2014年は805と、若干減りました。

投融資の承認・実行・組み合わせ

2014年には融資と株式投資の承認額と実行額は増え続けました。2億9,730万ユーロ(2013年)だった承認額は3億8,380万ユーロ(29%増)になりました。実行額は3億610万ユーロ(2013年)が3億3,790万ユーロ(10%増)になりました。ポートフォリオの伸びは全ての国、特にラテン・アメリカで好調です。アフリカでもポートフォリオの伸びは目覚ましく、融資残高8,880万ユーロ(2013年)から1億410万ユーロ(2014年)に増えています。

オイコクレジット戦略で目指していることに、ポートフォ

リオを多様化して金融セクターへの依存度を減らし、生産者団体やその他の企業への直接貸し付けを増やすことがあります。しかしながら、マイクロファイナンス機関への平均的な貸付額が他分野と比べると多くなる傾向があり、ポートフォリオに占める金融セクターの割合は82%(2013年)から少し増えて84%(2014年)になりました。インドでは、社会的業績において非常に高い外部評価を受けた三つの大規模なマイクロファイナンス機関に対して相当な額の貸付をしました。農業や再生可能エネルギーへの投資は、ポートフォリオ全体に対する比率はわずかに減ったものの、絶対額はどちらも増えています。

小規模農業の支援

生活の糧を主に農業に頼っている地方の零細農家への支援を増やすことにも取り組み、農業ポートフォリオは増え続けています。農業分野への投融資残高合計(貸付けと株式発行)は6,410万ユーロ(2013年)から8,370万ユーロ(2014年)に増え、農業パートナーの数も158から179に増えました。

また2014年には、ペルーとコートジボワールに拠点を設けた「3名で構成する農業ユニット」が操業を開始し、現地事務所と共同で適正評価を行ったり、ココアやコーヒーなどの生産に関する専門知識を学んだり、融資を勧めたりしています。この農業ユニットの技術支援のおかげで、アフリカの小規模農家からコーヒーを仕入れているルワンダやウガンダのコーヒーやその加工品会社に融資できるようになりました。

農業パートナーへの投資については、パートナーのニーズに合わせた融資提供により質が高まっています。2014年にはアフリカやアジア、ラテン・アメリカの地域スタッフに対して、農業パートナーとより良い関係を築くための特別研修を行いました。

また、社会的投資家連盟である「小規模農業金融協議会」にも参加しています。これは持続可能で透明性のある金融市場をめざす連盟で、中低所得国の小規模、あるいは成長しつつある農業起業家たちを支援しています。連盟の他のメンバーとは定期的に会合を持ち、公正な貸付業務の調整や開発、スタッフやパートナーの共同研修、融資協力をしています。

再生可能エネルギー

再生可能エネルギー投資の目標は3つです。まず環境保全を確約するオイコクレジットのトリプルボトムライン(社会・環境・収益の3つの目標)を表明するため、そして化石燃料による発電を再生可能エネルギーに転換して二酸化炭素排出量の削減を推進し、所得が低くエネルギーを利用できない人々にエネルギーを供給するためです。

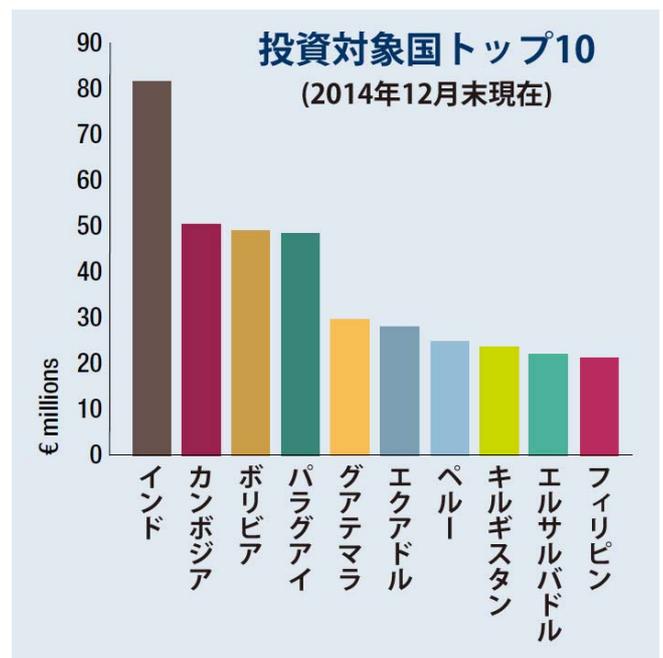
2014年、オイコクレジットは再生可能エネルギー投資の専門家を再生可能エネルギー部門のトップに雇用し、総額1,270万ユーロにのぼる7つのプロジェクトを承認しました。再生可能エネルギーのポートフォリオは840万ユーロ(2014年)になり、急速に増え続けています。例をあげると、支援団体メンバーの提案で立ち上げたペルーのGeneracion Andinaのマイクロ水力発電プロジェクトは、遠隔地での発電を目指しています。Generacion Andinaは再生可能電力をペルーの電力供給網に売って生みだした資金で、地元コーヒーの加工、販売に再投資する予定です。また、ドイツ開発銀行(DEG)とEvangelische銀行(アフリカでの最初のプロジェクト)が運用する再生可能エネルギーファンドや、ブルガリアの酪農場へのバイオガス装置の設置、インドの太陽光照明などへ投資するプロジェクトなどがあります。

新規事業開発

オイコクレジットのポートフォリオの新たな側面として、より多様な形態でのパートナーの資金調達支援があげられます。マイクロファイナンス機関パートナー向け劣後債務(準株式)といった投資金融商品の開発も事業開発の専門家の課題です。投資先が債務不履行になった場合には、こういった劣後債は一般の株式よりも前に分配清算されますが、通常の融資よりは債務弁済が後回しにされます。通常の融資に比べてハイリスクですが、マイクロファイナンス機関パートナーへ投資する人たちには魅力的な商品です。



APPBOSA(オーガニックバナナの生産、フェアトレード協会)、ペルー



オイコクレジットは、中小企業への融資を行う商業銀行、特にアフリカの銀行への貸付を進める計画に着手しました。中小企業は低収入の人々の雇用を生み出し、農業セクターでは小規模農家の作物販売を助けます。商業銀行への貸付により、「ミッシングミドル」(伝統的な金融機関へのアクセスがない新興国の中間層で資金の流入が不足している層とされる)にさらに的を絞ることができるだけでなく、私たちのポートフォリオのバランスを保つことができます。

アフリカの重点化

アフリカは他の地域に比べて低所得国が非常に多い地域であり、オイコクレジットの事業展開では重点地域です。オイコクレジットには、アフリカ大陸を専門とする部署が3カ所あります。東アフリカ地域事務所、西アフリカ地域事務所、そして市場開発チームです。アフリカにおける事業には、農業分野におけるバリューチェーン開発や人材の確保と育成、パートナーへの能力開発支援などがあります。新たに設定した3カ年地域成長戦略に沿って、2014年には地域事務所に更に多くの人材を確保し、融資承認額を3,730万ユーロ(2013年)から8,030万ユーロへと大幅に拡大しました。これは、アフリカにおけるパートナー(2013年の41から58へ増加)と平均融資額がともに増加した結果です。とはいえ、他の地域(特にラテンアメリカ)でもポートフォリオは増大しており、開発融資ポートフォリオに占めるアフリカの割合は相対的にやや減少しています。

延滞債権率

2014年のポートフォリオの質は上昇し続けており、全体的な延滞債権率(PAR)、即ち、90日以上支払い遅延が生じている債権がポートフォリオ全体に占める割合は6.5%(2013年)から5.1%に減少しています。また、融資額が年間を通じて大幅に増加しているにも

かわらず、返済が遅れている融資の絶対量は徐々に減少しており、不良債権の増加もありませんでした。農業分野におけるポートフォリオの延滞債権率も、数字は依然として高いものの、19.5%(2013年)から15.7%(2014年)へと大幅に減少しました。

保証と業務提携

オイコクレジットは、パートナーへのシンジケートローンのため、2014年、米州開発銀行およびオランダ開発金融公社と新たに事業提携しました。また、再生可能エネルギー事業への協調融資のため、Triodos銀行とも事業提携を始めました。米州開発銀行との協調融資では中小企業に貸し付けるエクアドルの銀行に対して、また、オランダ開発金融公社とはタクシー運転手用のミニバス購入資金に融資する南アフリカの金融会社に対して協調融資をしました。

組織開発

この1年間、オイコクレジットは更なる効率性と収益性を確保するために、融資部門と各地域の地域事務所の見直しを行いました。この見直しは、収益性を圧迫する昨今の低金利環境への対応の一環として実施したものです。まず、収支管理について各地域事務所がこれまで以上に責任を負うようにしました。オイコクレジット地域事務所の大きなネットワークは、世界中での業務展開にあたり、引き続き中心的な役割を果たしてまいります。なお、モルドバとロシアの国別オフィスについては、ポートフォリオ拡大の見込みが低く、ポートフォリオの管理は地域の中核事務所を通じて効果的に行うことが出来るので、閉鎖しました。



Habitat、エルサルバドル

2014年には、新たに3名を地域事務所のリーダーに任命しました。全員が内部昇進です。西アフリカの地域マネージャーには、20年にわたって地域事務所の拡張に尽力した Mariam Dao の後任者として Yves Komaclo を任命しました。メキシコ、中央アメリカとカリブ諸国の地域ディレクターに Eduard Walkers、インドのディレクターに Gouri Sankar を任命しました。さらに、インド地域事務所は、地域開発センターに格上げし、最大100万ユーロまでの融資を直接承認することができるようになりました。

また、融資や投資の状況を確認する現在のオンラインシステムを、機能性を強化した新たな統合システムへと移行し始め、2015年にはこの新システムを稼働させる予定です。新システムの導入により、現行システムよりも融資の管理や申請機能が統合され、システムの取り扱いや維持管理が簡単になります。さらに、プロジェクトパートナーの審査及び融資の管理方法について、スタッフが参照している支出に関する内部規程のオンラインマニュアルを、2014年に改訂しました。

株式投資

株式ポートフォリオは、2014年中に純資産額が5,520万ユーロに増加し、投資案件は45(一般株式、転換社債、特別社債)でした。また、再生可能エネルギー・ユニットへの投資2件を含む2,290万ユーロの投資を承認し、860万ユーロの株式購入を行いました。また、3銘柄の株式売却で220万ユーロの純益を得ました。

オイコクレジットは強固な社会的目的と着実な将来性を持ち合わせた活力のある社会的企業を応援しています。そのような企業の一つにエジプトの Sekem があり、最大の株式投資先です。Sekem は供給業農家が有機農業やバイオダイナミック農法への転換を図る事業方法の評価に投資しています。また、ザンビアにある Yalelo は地域の潜在力を活用しながら持続可能な水産養殖業を確立し、輸入の冷凍物に代わる地元産の良質な魚肉タンパク質を供給しています。ハイチの Fonkoze は、地方にあるマイクロファイナンスのネットワークを統合して事業の継続力や財政力を高め、20万人を超える顧客にサービスを提供しています。

株式投資担当チームは、ラテン・アメリカ及びアフリカのスタッフを含め、12名に増員しました。これまで以上に銘柄選択の精度を高め、地理的状況やセクターに着目し、平均投資額を増加し、投資先の積極的なマネジメントを行うためです。このような取り組みにより、地域の事務所やネットワークと密接に協力しながら、来年にはポートフォリオを倍増し、現在と将来の金融および農業パートナーに対してガバナンス支援や更なる融資を行うことを目指しています。

2015 年を見据えて

2015 年は明るい見通しです。マイクロファイナンスの主流化が進むなかでオイコクレジットにとっての課題は、より先駆的な方向性を見いだして発展させることです。特に再生可能エネルギープロジェクトへの社会投資や、バリューチェーンでの農業関連企業への融資を通して小規模農家を支援することです。アフリカでの取り組みの安定的な進歩とあわせてこれらの分野は更に成長が期待できます。我々は 60 カ国を超える 800 以上のパートナーへの投資を通じて、これからも社会的投資家としての独自の地位を確立していきたいと考えています。

融資や事業担当スタッフ向けには、新たな社内研修を立ち上げます。この研修では、オイコクレジットの重要な価値観、また、新規あるいは既存のパートナーのオイコクレジット流の社会的、財務的な分析手法に焦点を当てます。本研修の講師は、オイコクレジットのベテランスタッフが務めます。研修のもう一つの柱は農業金融で、農業パートナーを支援するスタッフの能力向上を図ります。

オイコクレジットは、投資と人材育成の統合を更に進めていきます。支援相手の農業パートナーや協同組合、その他の組織は、事業や活動強化のため、融資と人材育成の両方を必要としています。このような取り組みを通じて、小規模農家やその家族に利益をもたらすという究極の目的が達成されるのです。

(翻訳協力: 東京 YWCA 国際語学ボランティアズ
ILV、呉、久宗)